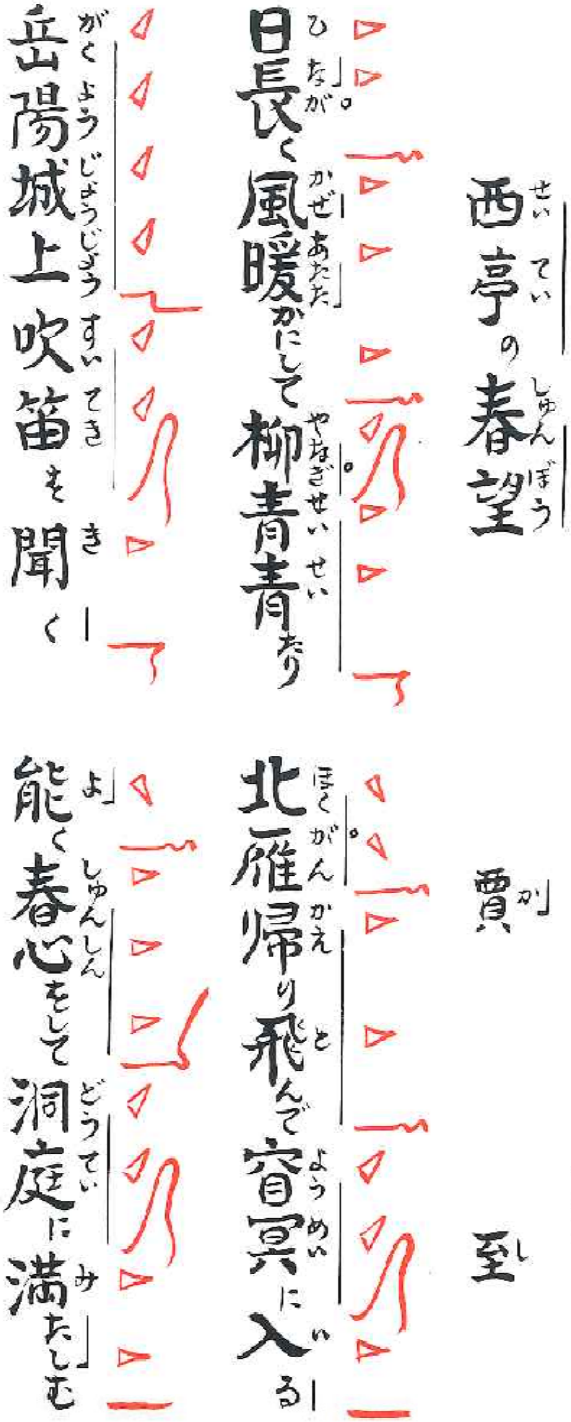

【作者】賈至（七一八～七七二年）盛唐の詩人。字は幼幾。洛陽の人。安史の乱には、玄宗に従って、蜀に避れる。

【語釈】＊西亭…岳陽城の西にあったあずまやという。岳陽の西には洞庭湖があるので、洞庭湖を見下ろす位置にあったのだろう。　＊春望…春のながめ。春景色。　＊窅冥〔ようめい〕…遠く暗い涯

【通釈】昼間が長くなり、風が暖かくなって、柳は青青としてきた。北方の（帝都・長安の方）へ渡っていくガン飛んで帰って遠く暗い奥の涯に消えていった。（東の方の）岳陽城から笛を吹くのが聞こえてきて。よく春の物思いを（西側に広がる）洞庭湖の上にまで満ちあふれさせている。